



まちライブラリー関連企画

あの話題の本の著者が
直接自著について語る
「ホントに本と本人登場！」

第2回著者トーク ゲスト 福屋利信博士

第2回目は元山口大学国際総合科学部教授、元山口学芸大学教育学部教授である福屋利信さん。
第1回目の小川仁志先生からのリレーです。

最新作の『海峡から聞こえてきたブルース：関釜連絡船と関釜フェリーが帯びた記号論』（大学教育出版）は、「日韓近現代史に対して、日本人は自虐的にならずとも自省的であるべき」との一貫した姿勢から、日韓関係改善の指標提供を目指している。東京・ソウル間が政治的にぎくしゃくしても、常に一定の経済・文化交流を維持してきた下関・釜山発のオルタナ日韓論は、従来の日韓研究にカウンターナラティブ（支配的な語りに対抗する語り）をもたらす可能性を秘めるとして、注目を集めている。

座右の銘は、明石家さんまの「生きてるだけで丸儲け」。

福屋利信（ふくや としのぶ）博士（文学）プロフィール



音楽社会学者（ビートルズ研究、J-POPとK-POPの比較研究、アメリカ文学研究が専門）。最近では、東アジア論に研究の幅を広げ、特に日台関係・日韓関係の著作群は、独自の視点に定評がある。加えて、教育面では、プロジェクト型課題解決学習（Project-based Learning: PBL）の普及に尽力している。

代表作に、
『ビートルズ都市論』（幻冬舎新書）
『ギャツビー&レノン：アイリッシュソウルの系譜』（近代文藝社）
『ロックンロールからロックへ』（近代文藝社）
『台湾の表層と深層』（かざひの文庫）
『音楽社会学でJ-POP!!!』（かざひの文庫）
『植民地時代から少女時代へ』（太陽出版）
『大学教授よ、書を捨てよ、街へ出よう：PBL進化論』（太陽出版）などがある。また、共著にピーター・バラカンの『読みつぐビートルズ』（萌書房）がある。



語る本 「海峡から聞こえてきたブルース： 関釜連絡船と関釜フェリーが帯びた記号論」

日時：2022年12月3日（土）15:00～16:00

場所：キッズラップ「子ども第三の居場所」山口宇部拠点
山口県宇部市新天町2丁目1-5

お申し込み方法：

QRコードから 参加者一人ずつのお申し込みをお願いします



「まちライブラリー」とは

まちの中のカフェ、ギャラリー、シェアオフィス、お寺、病院などに本棚を設置しそこにメッセージを付けた本を持ち寄り交換しながらまちのコミュニティを作っていくという活動です。

<https://machi-library.org/>



「主催：一般社団法人キッズラップ

TEL:0836-39-0080 FAX:0836-39-0084
〒755-0029 山口県宇部市新天町2丁目1-5

<https://kids-wrap.or.jp/>

